

フードバンクにしお誕生

2020年12月末

外国人の就学などの支援をしている社会福祉法人せんねん村の多文化共生ルーム「KIBOU」より、コロナ禍において外国人の生活が困窮しているから「西尾子ども食堂」で食料支援を行っていただけないかとの要請があり、急遽各団体へ協力依頼をし、立ち上がったのが「フードバンクにしお準備会」という有志の会。子ども若者相談ステーションコンパス、子どもの遊び場を提供しているにしおプレーパーク、外国人支援をしているNPO法人Adagio、高齢者団体の老人クラブ連合会、コープ愛知にしお、やらまいかななどのメンバーで構成され、みんなやったこともない年末の食料支援をした。心は一つ「おなかをすかせている人をほっとけない。」市役所のパブリックスペースで行ったのが初めての支援。これをきっかけにフードバンクにしおは誕生した。

フードバンクにしお 誕生～継続へ



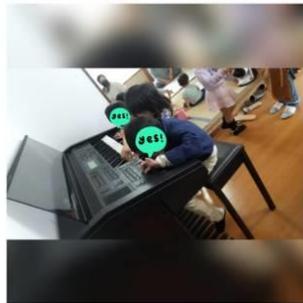
フードバンクにしおでは「フードパック」と呼んでいる食料が詰まった段ボール世帯人数に合わせて量を変えている。

2021年2月 「フード&ライフパントリー」を開始

生活困窮しているのは、外国人だけではないということが年末の支援で分かり、2か月に1度「フード&ライフパントリー」という名称のもと食料と生活用品の無料配布をひとり親家庭、多子家庭、外国人世帯を中心に支援活動が続ける。

2021年3月 社協へ食料提供の開始

社協ではコロナ禍において緊急小口資金の貸付が多かったこの時期、食糧難に陥っている人も多かったため、食料を社協へ提供し、貸付の相談後その場で必要な方へ提供できるように少しずつ倉庫を整備し、食品の管理体制を整えて始めた。



フードバンクにしお プラットフォーム化

2021年7月 「フードデポにしお」発足

市内の子ども食堂や子供の支援を行う団体へ食料を提供するシステムとしてLINEグループにて「フードデポにしお」を発足させる。

フードバンクにしおから安定的な食料を行うことで、子ども食堂の運営と食料を求めて来た親たちに支援（食料配布）するための後方支援する体制を作った。

フードデポにしおは新規に子ども食堂を始める人の交流の場でもあり、それぞれの食堂独自の考えやスタイルを尊重し、フードバンクにしおがプラットフォームとなり市内の子ども食堂を支えていく活動を本格化する。

←お寺横丁ぷちの輪（西野町）活動写真

予約なし・自由に子どもたちが集まるぷちの輪
頂いた支援品を駆使していつもおいしい食事を
提供している。

フードバンクにしお実績（2021～2023年）

2021年 活動実績世帯数：**1,125世帯** 延べ**3,427人** 多くは母子世帯、次いで外国人世帯の利用が多い。

2022年 4月 ボランティア団体の有志の会のみで、継続し続けることは難しいと判断し、社協側へ事務局の配置と設備投資を依頼する。「フードバンクにしお準備会」から正式に「フードバンクにしお」となる。

2022年 活動実績世帯数：**2,376世帯** 延べ**7,382人** コロナが3年目となり、もともと生活が苦しかった世帯はさらに苦しくなり、耐えてきた世帯が困窮へとなるケースが増えてきた。

2023年 活動実績世帯数（10月現在まで）：**1,474世帯** 延べ**4,165人** コロナ禍が緩和されたが、追い打ちをかけるように世界情勢不安と物価高騰が相まって、困窮世帯が苦しい状況から抜け出すことが難しい状況が続いている。

活動①定期支援



毎月第1土曜日の16時から17時で予約期間（支援日から1週間前から3日間に設定）に申込のあった世帯へ定期支援を行っている。

毎月50世帯200人くらいの利用者が総合福祉センター2階の調理室に「フードパック」を取りに来ている。

定期支援を受けることができる概ねの基準は決められており、一定の収入以下（非課税世帯や低所得者世帯、ワーキングプアなど）にひとり親家庭、多子家庭、病気やケガによる就労ができない状況。また、障害や介護、妊娠や産後などの理由も利用条件となる。

現在約240世帯がフードバンクにしおに登録している。

その中で定期的に支援を受ける世帯数は60～80世帯である。

継続的に見守りが必要な家庭もあり、生活保護を受けずにフードバンクを利用することで生活維持ができていく世帯もある。



定期支援に欠かせない準備は、精米と袋詰め作業。

200人×1kg以上は用意するため、毎月お米だけでも200kg用意をする。



ひとり親家庭
限定企画
愛知こどもの国で
BBQをしたよ

中部国際空港ホテル
ランチビュッフェ
に行ってきたよ



フードバンクにしお 活動② 子どもの居場所づくり

フードバンクにしおは、目的に「子どもの健全育成」を掲げている。

どの子どもにおいても、同じようにご飯を食べることができ、同じように遊ぶことができる。そんな場所を作ってあげたい。

子どもの体験や経験格差を減らし、成功体験を積み、自信がもてる子ども達になってほしい。
子どもたちが安心して暮らせる世の中に少しでもさせてあげたい。



規格外製品などの製品も受け入れることで廃棄されることなく、困窮者の方にために生かされている製品もある。

【写真】

廃棄になる不織布のエコバックを寄付してもらい、お米を入れて配付

活動③ 活動の幅は広がり続けている

1. ごみの多い家の片付け

食料支援で配達した家庭がゴミ屋敷化しているケースで支援を必要している場合はゴミの片付けや掃除の支援に入ることもある。

2. 就労の支援

一般就労は現時点では難しい利用者にフードバンクにしおの仕事を手伝い、有償ボランティアとして協力してもらうことで就労への自信や興味、関心をもってもらえる支援をしている。

3. フードロスの取り組み

賞味期限により、まだ食べられるが廃棄してしまう食品を積極的に受け入れ、消費することでフードロス、ごみ減量化等のSDGsに貢献している。